

磯山城遺跡

—発掘調査速報—

1984

米原町教育委員会

序

米原町教育委員会では、昨年度より大字磯に所在する磯山城遺跡の発掘調査を行なってまいりました。

今回の調査では、今から約8,500年前にさかのほる縄文時代早期の高山寺式土器が多量に出土し、注目をあびました。その後、継続して山麓部を調査しましたところ、縄文時代早期とみられる屈葬人骨がほぼ完全な姿で出土するというビッグニュースも入りました。

調査は6月末日に終了し、現在遺物の整理、報告書の作成に努力しております。今回は、このような重要な遺跡の調査成果をより早く皆様に知っていただくため、速報という形で冊子を作成することとなりました。この冊子がより多くの方々に親しまれ米原町の歴史をさぐる一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査に御指導、御協力を頂いた関係各位に対し、心から御礼申し上げます。

昭和59年9月30日

米原町教育委員会

教育長 福田 定観



1. 調査の経過

入江内湖は、安土町大中湖に次ぐ大きさの琵琶湖の内湖でした。しかし、戦中から戦後にかけて干拓事業が行なわれました。その際、内湖周辺で縄文時代から平安時代にかけての土器、石器、木器が採集されており、内湖周辺には原始より人々が生活していたと考えられていました。

今回、磯山北西尾根上に町淨水場建設事業が実施されることとなり、町教育委員会が主体となって事前に発掘調査を行なうこととなりました。

調査は、昭和59年1月6日より3月31日までを尾根頂上部分（1～4トレンチ）で行ない、引き続き4月10日より6月30日まで山麓部分（A～Cトレンチ）の調査を行ないました。



調査風景
山麓部Aトレンチの調査を行なっているところです。

調査地古写真(昭和19年)
十数以前の磯山付近を北東から写したもので、全面に広がるのが旧入江内湖です。
正面の山が磯山で、調査地は右端の尾根部分です。
(琵琶湖千石資料館蔵)



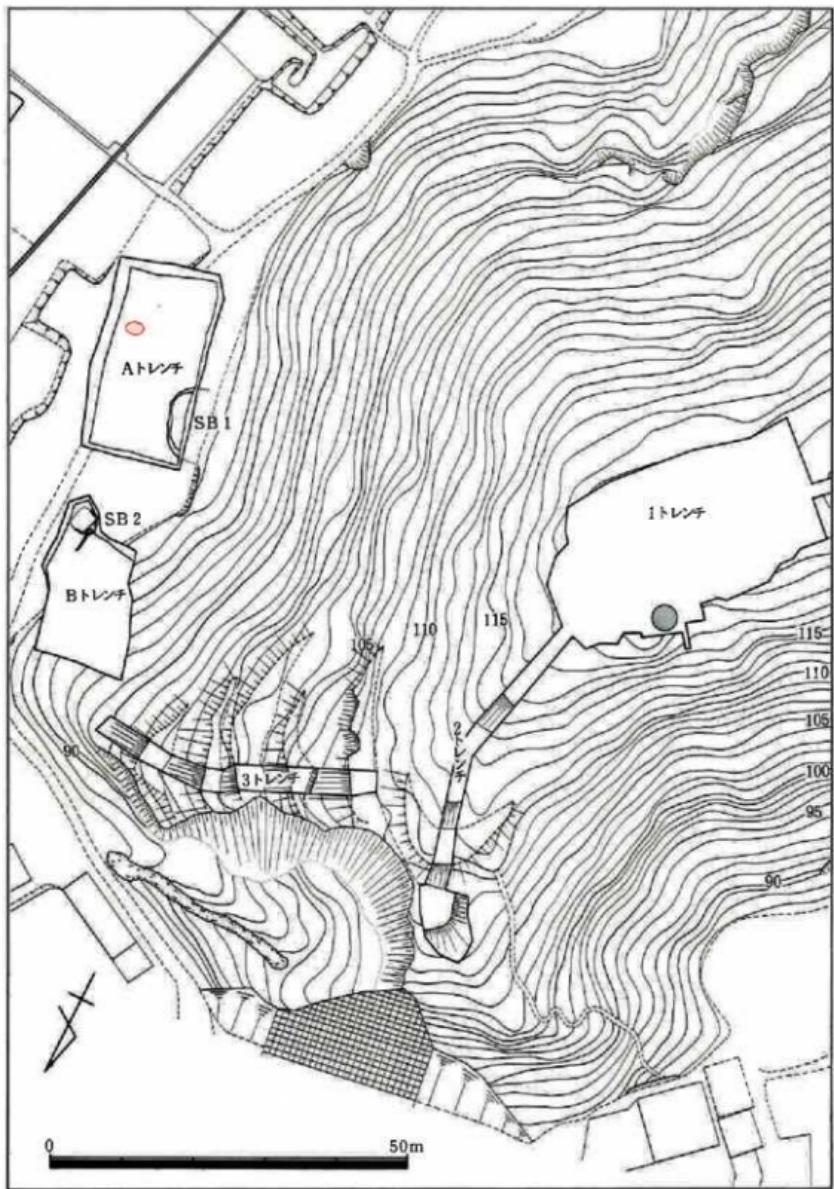


図2 調査地トレンチ配置図（◎は高山寺式土器出土地、朱は人骨出土地点）

2. 縄文時代の遺構と遺物



縄文土器出土状況 1

山頂部1トレンチで、縄文時代早期の高
山寺式土器が出土した状況です。破片約
200片、2~3個体分と考えられます。



縄文土器出土状況 2

山麓部Aトレンチ、人骨出土地付近で出
土した土器群で、縄文時代早期の船形式
土器と呼ばれるものです。



縄文土器出土状況 3

Aトレンチ、スクモ層より出土した縄文
時代後期の宮施式土器。



人骨出土状況

Aトレーナー中央部、現地表面より約3.0m下で埋葬施設を検出しました。人骨は2体分確認しました。このうち2号人骨はほぼ完全な形で出土し、年令45才前後、身長165cm程の男性と考えられ、その葬法は、あお向けに寝かせた後、足を頭まで折り上げた2ッ折り状の埋葬でした。この葬法は他に例がなく、縄文時代の葬法を考えるうえで貴重な資料といえます。



図3 人骨出土状況平面図（朱は土器片）



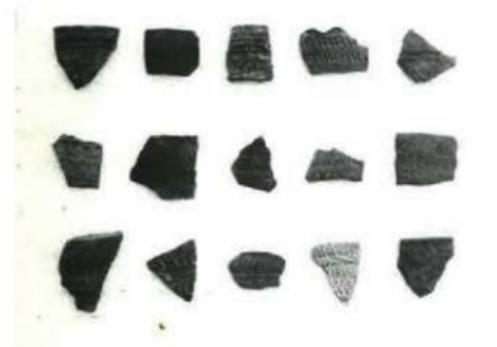
縄文時代早期(高山寺式)

高山寺式土器は、和歌山县田辺市の高山寺貝塚出土の土器を標準とするもので、その特徴は外面全体に格円形の押型文を施し、内面には斜行沈線を施しています。形はラッパに似て、口縁は大きく外反し底部は尖っています。



縄文時代早期(柏畑式)

Aトレンチ地山直上面で多量に出土しました。この柏畑式土器は、名古屋市柏畑貝塚出土の土器を標準とするもので、その特徴は直口で小さな平底をもち、内外面ともに象嵌仕上げとなっています。文様は爪形文列のみです。



縄文時代前期(北白川下層式)

北白川下層式土器は、京都市北白川小倉町遺跡出土の土器を標準とするもので、最近は福井県鳥浜貝塚の調査で、I a 式(D字形爪形文)、I b 式(C字形爪形文)、II a 式(縄文+連續爪形文)、II b 式(縄文+C字形爪形文)、II c 式(縄文-矣帶文)、III式(特殊突唇文)に細分化されています。



縄文時代中期(船元式)

船元式土器は、岡山県船元貝塚出土の土器を模式とするもので、土器面には堅い纖維の縦文を地文とし承形文、利突文、アルカ属貝压痕を加えたものが特徴です。文様からI～IV式の4つの形式に区分されています。



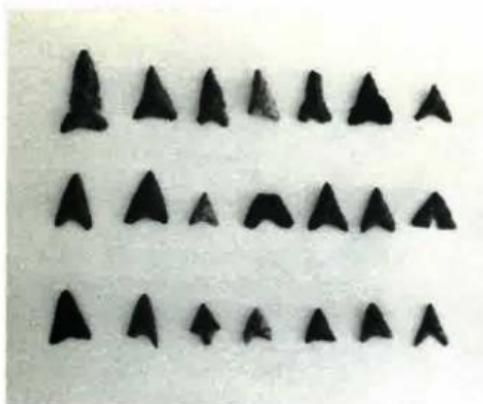
縄文時代後期(宮清式)

宮清式土器は、奈良県宮清遺跡出土の土器を模式とするもので、巻貝による凹線文を数段めぐらしたうえに巻貝による刷状圧痕文を施すのが特徴です。



縄文時代晩期

縄文時代晩期後葉になると新月突帯文土器が出現します。これは口縁部または頸部に貼り付け突帯をもつ土器群で滋賀里VI、V式土器と呼ばれ以後2条の突帯を持つ船橋式、長原式へと続きます。



石 鐛

石鎌とは、石で作られたやじりのことです。これによって獸や鳥を採っていたのです。製作技法は全て打製で、石材は大部分がサヌカイトですが、チャート製のものもみられます。



石 斧

石で作られたおののです。これによって木を切ったり土を掘り起したと考えられます。左の3個は磨製石斧で、右端のものは打製石斧です。



石鎌・磨き石・石棒

上段は石鎌と呼ばれる石の両端を打ち欠き網のおもりとして使ったものです。中段は磨き石で、木の実等をすりつぶす際に使われたものです。下段は石棒で、両端部の使用度から木の実等をたたき割ったり、すりつぶしたものと考えられます。



石匕・石錐・剝片

左上2個は石匕と呼ばれ、獣の皮をはぐナイフとして使われたものです。右上2個は石錐と呼ばれ、石のきりです。下段は石器を作ったときに剥離した剝片で左が水晶、右3個が黒曜石です。

Cによる年代(B.C.)		近畿	瀬戸内	東海
早期	7290±500(夏鳥)	神奈川 大山	上野原 I 上野原 II 御ノ瀬 A 足立鳥	相模 I 相模日之青瓦 九谷白瓦
	6443±250(久鳥)	西山寺	相ノ瀬 B	大根下
	5750±200(佐長浜)	越谷	福	山ノ内 — —
		石山三 石山三 石山三 石山三 石山三		船形 上之山 久須 久須日 天弓山
前期	3350±400(高尾)	安土N上層 北白川下層 I 北白川下層 II 北白川下層 IIIa 北白川下層 IIIb 大根下	羽島下層 I 羽島下層 II 御の森下層 福ノ森 度崎乙子 度崎乙子 日井井	木舟
		+	相模 I 相模 II	相模 北相模 足根
中期	2563±300(柏山)	高根丘 高根丘	足木 I 足木 II	+
		+	相模 I 相模 II	+
後期		天神丘	中津 丹波上層 丹波中層 丹波中層 丹波中層 丹波中層	相模 I 相模 II 相模 III 八幡
	1123±180(横見川)		丹波上層 丹波中層 丹波中層 丹波中層	相模 I 相模 II
晚期	950±140(八幡站)	御賀 御賀 御賀	吉七郎 I 吉七郎 II 吉七郎 II	足利 足利 足利
	640±150(西志野)			足利 足利 足利

縄文土器編年表

(新木義昌編『日本の考古学』戦文時代1965より)

朱線は、磯山城跡より出土した土器です。この他、関東の茅山式(早期)、中部の新道式(中期)などが出土しています。

3. 弥生～飛鳥時代の造構と遺物



Aトレンチ全景

△トレンチでは、7世紀初頭の造構を検出しました。多くのピットは掘立柱建物と考えられます。また、堅穴住居跡SB1も検出しました。



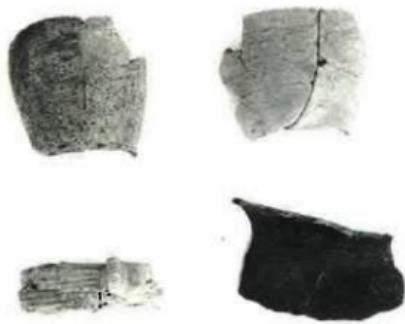
住居跡(SB1)

Aトレンチで検出した円形プランの堅穴住居跡で、直径10mを測る大形のものです。床面直上で7世紀初頭の須恵器が出土しています。



住居跡(SB2)

Bトレンチで検出した方形プランの堅穴住居跡で、一辺が3mを測ります。床面直上で7世紀初頭の須恵器が出土しています。



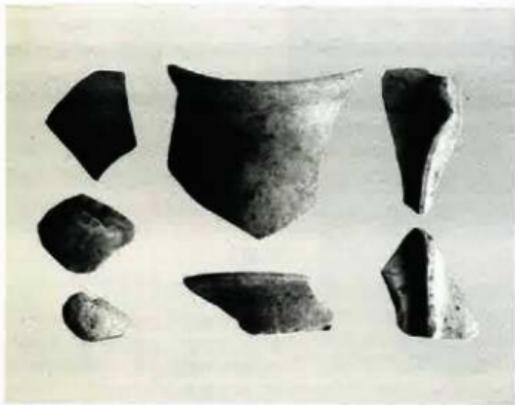
弥生式土器

Aトレンチ、スクモ層からは、ごく少量ですが弥生時代中期IV様式、後期V様式の土器が出土しています。現在の時点では前期にさかのほる土器は未確認です。



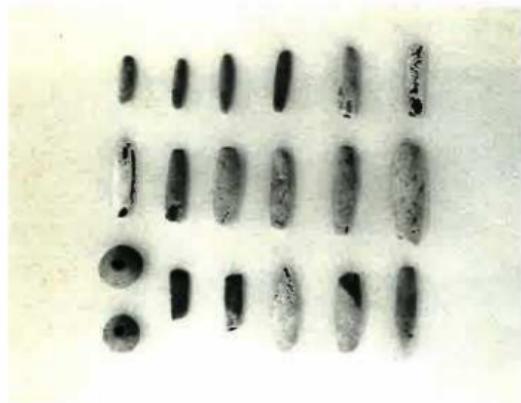
須恵器

山頂部Aトレンチで出土した杯です。器形より5世紀末～6世紀初頭、古墳時代のものです。山頂部Aトレンチでは、数多くの庄内、布留山時期の古式土師器も出土しています。



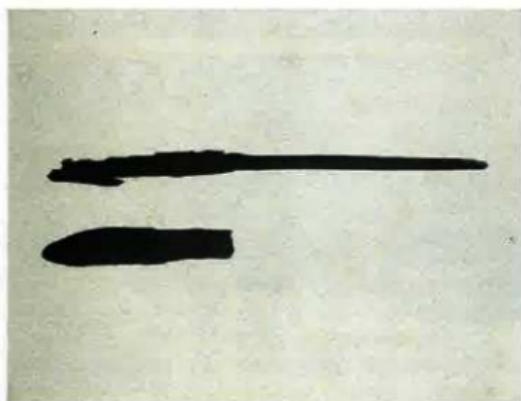
土師器

7世紀初頭の遺構面より出土したものです。近江型の長胴甕、カマドの他、甕、皿、高杯等が出土しています。また同時期の須恵器もたくさん出土しました。



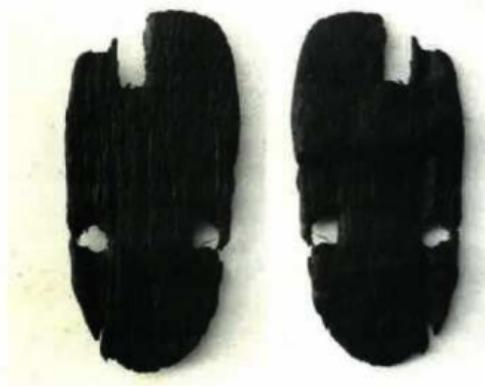
土器

大、小ささまざな大きさがありますが、全て魚狩に使う網のおもりと考えられ、河岸遺跡の性格がうかがわれます。



櫂

土器、石器以外に多くの木製品も出土しました。出土層位より見て、歴史時代のものと考えられます。写真は船の櫂(オール)と思われます。



下駄

下駄の起源は、弥生時代の田下駄や大足を別にして明らかではありませんが、古墳時代にはすでにあったと考えられます。この下駄は、前ツボの位置や台板幅より、5世紀後半と考えられます。

調査のまとめ

今回の調査は当初、室町時代の礎山城跡を確認する目的でしたが、調査の結果、予想だにしなかった縄文時代の遺物が多量に出土しました。これら縄文土器は最も深い所で現地表下約5mまで包含されていました。これは海拔81m付近ということになり、琵琶湖の水面下になるわけです。大津市栗津貝塚の海拔82m、近江八幡市長命寺跡底遺跡の海拔81.7mなどとともに、滋賀県下では最も低地の縄文遺跡の一つといえます。

縄文時代の遺構としては埋葬施設が検出され、人骨も2体分確認できました。1体は頭骨より足まで、ほぼ完全な形で出土しました。この埋葬方法は非常に特殊なもので、まずおおむねに腰をかた後腰から足を頭まで折りまげた、いわゆるエビ折り状の形態で、全国でもこのような葬法の出土例はありません。なぜこのような特殊な葬法がとられたのかは今後の課題ですが、縄文時代の葬法を研究するうえで有益な資料です。また、もう1体は腰より下のみしか検出されませんでしたが、ひざを折りまげた通常の葬式でした。

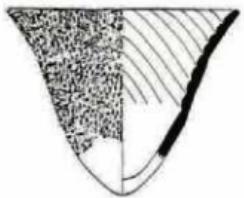
次に遺物に目を向けてみると、まず土器ですが、縄文時代早期、前期、中期、後期、晩期の各時期の土器が出土しています。このように全時期の土器が1つの遺跡から出土することは近畿地方では珍らしいケースです。特に注目されるのは早期末葉の巣山寺式土器の多量出土です。滋賀県下で発掘調査で出土した土器としては最も古いもので、典型的には兵庫県山芦原遺跡、福井県破入遺跡、愛知県先駆貝塚、和歌山県高野山寺貝塚をはじめています。また石器に関しては、その材料に大阪府二上山のサヌカイト、長野県和田岬の黒曜石を用いており、縄文人の交流の広さに驚かされます。和田岬産黒曜石に関しては、入江内湖遺跡とともに礎山城遺跡が西限地と考えられます。自然遺物としては多量の貝殻があげられます。その種類はイノシシ、ニホンシカ、カモシカ、スッポン、魚類などで当時の食生活が知られます。

このように礎山城跡は、まさに縄文時代の博物館と呼ぶことができますが、残念なことに住跡跡貝塚等は検出されませんでした。しかし、遺物の出土量から類推して調査地付近に集落があったことはまちがいありません。前面に入江内湖・琵琶湖の海の幸、後方に礎山から武奈・靈仙にかけての山の幸が豊富にあった当地は縄文人に住みやすい地であったと思われます。

縄文時代に引き続き弥生、古墳、飛鳥時代の遺物も量にはばらつきはあるものの出土しています。これらから礎山城跡は今から約8500年前から1,400年ほど前までの約7,000年間の長きにわたって人々が生活していたことが明らかになりました。



現地説明会風景(1984.5.26)



昭和59年9月25日 印刷
昭和59年9月30日 発行

磯山城遺跡
—発掘調査速報—

編集 米原町教育委員会
発行 滋賀県坂井郡米原町下多良3-3
印刷 立木印刷
滋賀県坂井郡米原町醒井478

